

コンゴ(民)月例報告
政治関連
2016年12月

主な出来事

- 2-4日、カサイ州チカパ市で伝統的酋長 Mbau NKANKA の民兵と治安部隊による衝突が発生、少なくとも31名(治安部隊側13名、民兵側18名)が死亡した。
- 8日、コンゴ・カトリック司教会議(CENCO)調停による直接協議(10月18日の政治対話合意の署名側と非署名側)のオープニングセッションが行われた。
- 9日、北キブ州ゴマ市近郊のムニギ(Munigi)キャンプで、17名の元南スーダン兵を乗せた MONUSCO 車両部隊が地元住民による投石等の攻撃を受け、一時的に、DDRプロセスの担当者数名が人質となった。
- 13日、周波数を管理する郵政・電気通信規制庁(ARPTC)はインターネット通信事業者らを集め、18日(日)から、ソーシャルネットワークサービス(SNS)へのアクセスに制限をかけるよう要請、これによって18日夜から約10日間、SNS等の機能が遮断された。
- 19日夜、バディバンガ内閣の閣僚名簿が発表された。首相を除くポスト数は67で、これまでの47から大幅に増加した。
- 21日、PNC 報道官は、カビラ大統領の憲法上の任期が切れた19-20日の被害状況に関し、全国での死者は22名と発表した。
- 22日、バディバンガ内閣の信任式が議会で行われ、バディバンガ首相が所信表明演説を行った。
- 31日深夜、10月18日政治合意への署名者側と野党プラットフォーム「Rassemblement」を含む非署名側との間で、CENCO 調停による政治合意への署名が行われた。

1. 内政

(1)コンゴ(民)政府による米でのロビー活動

・1日、メンデ政府報道官は、コンゴ(民)政府に圧力をかけ続ける米国に対し、コンゴ(民)のイメージを改善するロビー活動のため、元米議員のシンシア・マッキニー氏を雇用したと述べた。(これに対しマッキニー氏は自身のHPで、コンゴ(民)政府のロビー活動のために雇用されたことを否定した。)

(2)コンゴ・カトリック司教会議(CENCO)の調停による直接協議

・5日、CENCO 代表団は、政治対話合意の調停に関する進捗状況を報告するためカビラ大統領と会談を行った(ミナク国民議会議長とムウィラニャ大統領府官房長同席)。カビラ大統領は CENCO に対し全面的な支援を保証し、既に着手された調停の継続を奨励した。

・8日、CENCO 調停による直接協議(10月18日の政治対話合意の署名側と非署名側)のオープニングセッションが開催された。

・13日、9日に議題と3つの委員会の設置を採択していた直接協議が再開。MLC を中心として小政党と市民社会によって構成されるプラットフォーム「FRONT POUR LE RESPECT DE LA CONSTITUTION(10月29日発足)」は、参加人数枠の不足等を理由に、同協議からの撤退を決定したが、翌14日には CENCO との調整結果、同プラットフォームの参加枠が1名増員され、協議への再加入を発表した。

・21日、CENCO 議長と副議長がバチカンを訪問するため17日以降中断されていた協議が再開

された。クリスマス(25日)前の合意を目指す。

・24日、協議は未だ合意をみず、CENCO は29日(木)の再開を発表、30日(金)の合意を目指す。

・31日深夜、10月18日政治合意への署名者側と野党プラットフォーム「Rassemblement」との間で、CENCO 調停による政治合意への署名が行われた。

(3) 政府がソーシャルネットワークサービスの一部停止を通信事業者に要請

・13日、周波数を管理する郵政・電気通信規制庁(ARPTC)はインターネット通信事業者らを集め、18日(日)から、ソーシャルネットワークサービス(SNS)へのアクセスに制限をかけるよう要請した。事業者の1社は、当局から、SNS へのアクセスに制限をかけることで、メッセージ送信サービスは機能させたまま、ビデオ、写真や音声の送信を不通にすることを求められたと説明。このような制限が可能か否かを調査するための試験を行い、不可能な場合には、SNS へのアクセスを遮断することになる。

(4) バディバンガ内閣が始動

・19日夜、バディバンガ内閣の閣僚名簿が発表された。首相を除くポスト数は67で、これまでの47から大幅に増加した。

・22日、バディバンガ内閣の信任式が議会で行われ、バディバンガ首相が所信表明演説を行った。

(5) コンゴ(民)国家警察(PNC)発表による19-20日の被害状況

・21日、PNC 報道官は、カビラ大統領の憲法上の任期が切れた19-20日の被害状況に関し、全国での死者は22名(キンシャサ9名、ルブンバシ8名等)と発表した。キンシャサでの死者には、リンチを受けた警察官1名を含む。また、2日間で275名が尋問を受けた。これに対し、ヒューマン・ライツ・ウォッチは22日、治安当局によって全国で34名が殺害されたと発表した。

(6) 野党の動向

ア ムワンド UNADEF 党首の死去

・12日、G7の一翼である野党 UNADEF のムワンド党首は、病気療養中のブリュッセルで客死した。80歳だった。

イ チセケディ UDPS 党首によるメッセージ

・20日、チセケディ UDPS 党首は国民向けスピーチを行い、カビラ大統領の正当性を認めないよう訴える一方で、暴力を避けて平和的抵抗を行うよう求めた。

2. 東部及び大湖地域情勢

(1) 元南スーダン兵士を乗せた MONUSCO 車両への攻撃

・9日、北キブ州ゴマ市近郊のムニギ(Munigi)キャンプで、17名の元南スーダン兵を乗せた MONUSCO 車両部隊が地元住民による投石等の攻撃を受け、一時的に、DDR プロセスの担当者数名が人質となった。同攻撃による負傷者はないものの、ムニギ・キャンプには、マシヤール前南スーダン第一副大統領側の元南スーダン兵522名が宿営しており、地元住民による元南スーダン兵への敵愾心が表面化した。

(2) 北キブ州ブテンボでマイマイの攻撃により MONUSCO 兵士が死亡

・19日、北キブ州ブテンボ地区では、マイマイとみられる武装勢力がブテンボ市の刑務所を襲撃、MONUSCO 兵士(南ア国籍)1名、コンゴ(民)国家警察官1名が死亡。武装勢力兵士5名も死亡した模様。

3. その他地域情勢

(1)カサイ州チカパ市で伝統的酋長の民兵と治安部隊が衝突

・2-4日、カサイ州チカパ市で伝統的酋長 Mbau NKANKA の民兵と治安部隊による衝突が発生、少なくとも31名(治安部隊側13名、民兵側18名)が死亡した。Mbau NKANKA とその親戚による、伝統的酋長の座をめぐる争いが衝突の発端。6日、ボシヤブ(前)副首相兼内務大臣はチカパ入りし、治安状況は平静に戻ったと伝えた。

4. その他

(1)国際刑事裁判所が「裁判の運営に対する犯罪」でベンバ被告に懲役8年の求刑

・13日、国際刑事裁判所(ICC)は、中央アフリカの事態に関する証人に対する買収等で、元副大統領のジャン＝ピエール・ベンバ被告人に8年の懲役を求刑した。ババラ MLC 副幹事長には懲役3年が求刑された。